

路上からチンドン屋が消えて久しい。小学生の頃、白河のマチは楽しかった。店が立ち並び多くの人で賑わっていた。七夕、だるま市、サーカス、映画館。特に目を引いたのはチンドン屋。かつらに厚化粧。宣伝用の看板を背負い、太鼓や三味線を打ち鳴らす。珍妙な一行が口上を述べながらチラシを配り、街中を練り歩く。面白くて後をついていった。

江戸では商品を担いだ、ぼて振りが、町中で売り歩いてきた。1845年、大阪の法善寺を拠点に飴売りの一人「飴勝」が竹の鳴り物と売り声で人気を博した。口上の見事さから寄席の客入りを請け負うことになった。チンドン屋の元祖。跡を継いだ勇亀は、歌舞伎の「東西」の口上をまねた。「東西屋」と呼ばれ、街頭宣伝業の代名詞となる。

東京では、大阪出の秋田柳吉が木村屋のアンパンを売るため楽隊を用いた。太鼓を叩き、洋装した男女が街を回った。開店披露をすることから「披露目屋」又は「広目屋」と呼ばれた。やがて、口上中心の東西屋と、楽隊を伴った広目屋が一体化し、後のチンドン屋スタイルに近づく。

「懐かしきチンドン屋」



明治も末になると新聞広告等が主流になる。都会での大編成による宣伝は難しくなり、地方に舞台を移し4、5人編成で街回りをするようになる。大正になると、鉦・締太鼓・平胴太鼓を組み合わせた。一人で演奏できる太鼓セットが考案される。多くの東西屋・広目屋が用いるようになり、後にチンドン太鼓と呼ばれた。

昭和の初め、トーキーが無声映画にとって代わる。楽士は失業、旅役者や寄席芸人も映画に圧倒され、チンドン業界に入ってくる。派手な衣装にチンドン太鼓、楽隊という様式ができた。基本は4人。幟を持ちおどけ姿でビラを配る者。芸者や町娘に扮した三味線の女性。そして黒っぽい背広のクラリネット吹き。

チンドン屋の第1次全盛期は昭和7年頃から15年まで。恐慌から景気が回復し一挙に注文が増え、その数は3千人に昇った。戦時中は息を潜めた。第2次は朝鮮特需の昭和25年から15年間ほど。急速な経済発展で街に活気があった。路上に太鼓やクラリネットが響いた。

社会は変わる。生活空間の路上は自動車に占有される。郊外にショッピングセンターができる。街から魚屋、青果店、電気屋、映画館が消える。チンドン屋は次第に居場所を失っていく。同時に街から生活の匂いと温かさが薄れていく。

身の回りには、辟易するほどテレビやスマホの宣伝が溢れている。ラインで手に入ることができる。効率やコスパが最優先の時代。だが効率一辺倒では心のバランスを保てない。人は決して合理的にできていない。衝突する利害を調整し、じっくり心を交わしながら長い歴史を生きてきた。ローマやモンゴル帝国は、効率を強いつつ緩やかに繋がったから長続きした。

要領が悪かったり、役に立ちそうもない者は端に追いやられる。「釣りバカ日誌」の浜崎伝助はダメ社員。だが社員の心の安定剤になっている。日本社会は余裕を失っている。効率を求めるあまり「無用の用」の大切さを忘れていく。

大衆演劇がオバ様方の熱い支援を得、落語や講談、歌舞伎や狂言が根強い人気を保っているのは何故か。人の喜び、哀しみ、情、忠義といった生の感情が伝わるからだ。今も各地の祭りや縁日は多くの笑顔で満ちている。チンドン屋がしぶとく生き残っているのも、これらと相通するものがあるからだろう。

近頃はユーチューブで人気になり、店舗や結婚式などからお呼びもかかっている。若者が昭和歌謡に惹かれるように、時代遅れの広告業に新鮮さを感じるのかもしれない。チンドン屋は日本独特の路上の文化であり、平和の象徴だ。

12月の無料相談

種類	開設日	時間	会場・問い合わせ先	内容
弁護士法律相談(要予約)	6日(水) 20日(水)	10:00 ~ 12:00	●消費生活センター(本庁舎地下) ※マスク着用の上で、対面式の相談となります。 ●市消費生活センター ☎21133 (平日/午前9時~午後5時)	多重債務、離婚・相続問題などのトラブル、被災者の抱える二重ローン問題の相談など
	13日(水) 27日(水)	13:00 ~ 16:00		
交通事故相談	月~金曜日	9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 16:00	●県庁県政相談コーナー ☎024-521-4281	損害賠償請求や示談の仕方など
心配ごと相談	12日(火) 26日(火)	10:00 ~ 12:00	●中央老人福祉センター(北中川原) ●市社会福祉協議会 ☎24222	生計、家族に関する事など
定例行政相談会(予約不要)	12日(火)	13:30 ~ 15:30	●大信庁舎会議室 ●総務課 ☎21111 内線2350	道路、登記・戸籍、雇用、年金などの相談
認知症の人と家族の会	16日(土)	13:30 ~ 15:30	●中央老人福祉センター(北中川原) ●同県南地区事務局 ☎2394	認知症本人と家族の相談や話し合いなど
あったかカフェ	7日(木) 21日(木)	13:30 ~ 15:00	●マイタウン白河地下会議室(本町) ●高齢福祉課高齢者支援係 ☎25519	認知症に関する相談どなたでも参加可能
心の健康相談(要予約)	8日(金)	14:30 ~ 16:00	●県南保健福祉事務所(郭内) ●県南保健福祉事務所 ☎25649	うつ状態、ひきこもりなどに関する事
市民あったか相談所	月~金曜日	8:30 ~ 17:15	●生活防災課 ●生活防災課内専用電話 ☎21717	市行政などに関する相談
空き家の利活用相談			●企画政策課 ☎21111 内線2331	空き家バンクの登録など利活用に関する相談
おくやみ窓口利用の予約			●市民課 ☎21111 内線2173 各庁舎地域振興課 表郷 ☎2113 大信 ☎2114 東 ☎2113	亡くなられた方に関する市役所での各種手続きの相談のための予約
ハートコール(いじめ等相談電話)			●ハートコール相談専用電話 ☎0800-800-1893(フリーダイヤル)	児童・生徒のいじめなどに関する相談

12月の休日救急医療当番医

診療日	診療科目	医療機関名	電話番号
3日(日)	小児科	樋口小児クリニック	④2040
	内科・外科	きたむら整形外科	④5533
	歯科	海野歯科医院	⑤7474
10日(日)	小児科	みうら小児クリニック	⑧1001
	内科・外科	小針医院	④2366
	歯科	かたの歯科医院	②8833
17日(日)	小児科	にしごうキッズクリニック	⑨8725
	内科・外科	まつやまクリニック	④12311
24日(日)	歯科	白河歯科クリニック	②7133
	小児科	わたなべ子どもクリニック	⑩2166
31日(日)	内科・外科	よしだ内科クリニック	⑩5711
	歯科	斎須歯科医院	③4347
	小児科	白河厚生総合病院	②2211
31日(日)	内科・外科	会田病院	④2121
	歯科	ひぐち歯科クリニック	⑩5307

《小児平日夜間救急外来》

●場所 白河厚生総合病院 小児科外来 ☎2211  
●時間 午後7時15分~9時15分(土・日・祝日を除く)  
※受診する時には、必ず事前に連絡してください。

《救急電話相談》

すぐに受診するか救急車を呼ぶか判断に迷った時は、#7119をご利用ください(365日24時間対応)。

善意の窓 あたためた善意をありがとうございました。

- (愛の基金) (9月受付分)
- ♥10万円 小林 智一 様(道場小路)
  - ♥10万円 中山 フサ 様(昭和町)
  - ♥5千円 金勝寺ボランティア 佐藤 力 様
- 《小・中学校教育振興寄附金》
- ♥6万円 添田 文夫 様(大信町屋)
  - ♥4万円 大平 茂昭 様(東下野出島)
  - ♥3万円 円谷 勇雄 様(大信下新城)
  - ♥3万円 佐久間 廣保 様(東下野出島)
  - ♥3万円 大高 弘樹 様(久田野)
  - ♥1万円 真船 洋一 様(大信増見)
- 《学校教育振興寄附金》
- ♥4万円 小松 敏 様(東深仁井田)
  - ♥3万円 松本 晃宏 様(東釜子)
- 《幼稚園振興寄附金》
- ♥3万円 大高 弘樹 様(久田野)

12月の献血 ※日程と会場が、都合により変更になることがあります。

対象	実施日	時間	会場	所在地
事業所	8日(金)	9:30 ~ 10:30	白河日東工器(株)	双石
		12:00 ~ 16:30	住友ゴム工業(株)白河工場	双石
事業所	11日(月)	10:00 ~ 11:00	(株)白河川島製作所	大信下新城
		13:00 ~ 15:00	(株)光陽社	大信中新城
		15:45 ~ 17:00	三宝製薬(株)福島工場	大信下新城